

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

芦田川流域下水道芦田川浄化センター

(2) 事業所の所在地

福山市箕沖町106番地

(3) 業種

3631 下水道処理施設維持管理業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成27年度を基準年度とし、令和3年度から令和7年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1. 基本的な考え方

当事業場は、事業場運営において環境に与える要素を的確に把握し、環境の保全を運営の重要課題と位置付け、環境に配慮した事業活動に努め、環境への負荷の低減を推進することにより、持続可能な社会づくりに貢献します。

特に、地球温暖化防止については、電力使用量の抑制、未利用エネルギーの有効活用及び再資源化、平成29年1月からは汚泥固形燃料化事業にも取り組んでおり、温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

2. 方針

- 省エネルギーの推進
- 新エネルギーの導入促進
- 汚泥固形燃料化の継続
- エネルギー使用状況から設備運用・改善を検討
- 廃棄物の排出抑制
- グリーン購入の促進

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成27度	令和2年度
二酸化炭素	14,600	11,061

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成27度	令和2年度
メタン	739	878
一酸化二窒素	4,830	1,930
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF ₆ NF ₃)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)	削減目標		目標年度 (令和 () 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： **流入水量 (千m³)**

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成27年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和7年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	14,600	39,930	0.37	8.1	13,884	41,380	0.34
非エネルギー起源CO ₂							
メタン	739	39,930	0.019	-15.8	910	41,380	0.022
一酸化二窒素	4,830	39,930	0.12	58.3	2,029	41,380	0.05
その他 温室効果ガス							
総排出量	20,169	39,930	0.51	19.6	16,823	41,380	0.41
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	-	-	0.1293	4.9	-	-	0.1229
目標設定の考え方	下水道の流入水量は温室効果ガスの排出量に大きく影響する。よって原単位数値に流入水量を採用する。 エネルギー消費原単位として原単位ベース年1%の削減率を設定する。ただし、一酸化二窒素は汚泥処理を焼却処理から乾燥固形燃料化物製造へ変更する際の削減見込み率(58%)を設定する。メタンガスは原単位数値に流入水量を採用すると、原単位は計算上変わらないため0.22となる。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	電気使用量の削減	・電気の使用量を原単位で4～5%削減	・誘導灯や建築基準法上の非常照明のLED化 ・効率的な下水処理運転の実施 ・管廊建築付帯ファンの夜間停止
2	燃料使用量の削減	・重油の使用量を40%削減	・ビルマルチエアコンの導入による効率的な個別空調の実施 ・補助燃料としての重油使用量の削減
3	一酸化二窒素排出量の削減	・一酸化二窒素を原単位で58%削減	・下水汚泥の焼却処理を停止し、汚泥固形燃料として資源化
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

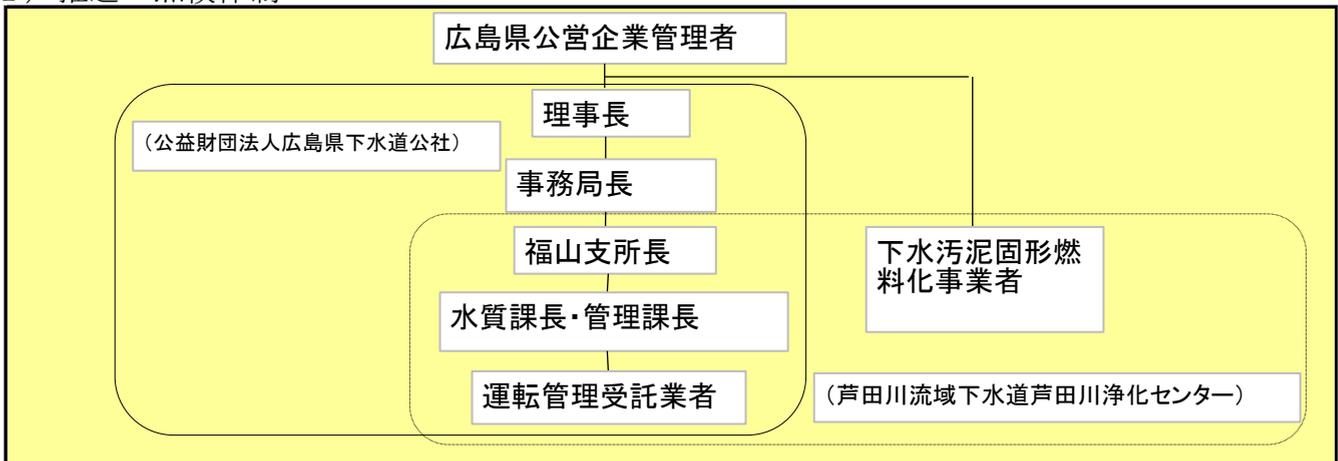
○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	グリーン購入	対象物品の調達に努める	広島県グリーン購入方針による
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

下水処理工程に関しては下水道公社管理課を中心として月毎に運転管理状況の点検・評価を行う。
固形燃料製造に関しては広島県流域下水道課を中心として月毎に製造状況の点検・評価を行う。事業場全体の取り組みとして、省エネ推進会議を年4回開催し、エネルギー使用状況の把握及び問題点の抽出を行い効率的な運転方法の検討を行う。

(3) 計画書等の公表

事業場内で事務所に備付け、閲覧できるようにする。